

庄内町立中学校の未来を考える懇談会（まとめ）

1. 参加者

〈委員〉

（敬称略）

所属機関等	氏名	所属機関等	氏名
余目中学校 PTA	信 夫 幸	立川小学校 PTA	森 保 如
立川中学校保護者会	阿 部 一 道	余目第二幼稚園保護者会	本 間 幸 浩
余目第一小学校 PTA	佐 藤 一 典	余目保育園保護者会	佐 藤 勝 則
余目第二小学校 PTA	齋藤 慎一郎	庄内町校長会会長(二小)	瀬 川 幸 子
余目第三小学校父母と教師の会	石 井 卓 也	庄内町立余目中学校長	佐 藤 真 哉
余目第四小学校 PTA	工 藤 純	庄内町立立川中学校長	中 里 浩 也

2. 会議の開催状況

○ 第1回 令和元年7月3日（水）

(1) 事務局説明

- ① 中学校生徒数の推移について
- ② 中学校の部活動の状況について

(2) 課題等について（自由討議）

○ 第2回 令和元年9月26日（木）

(1) 前回保留事項の説明

- ① 各中学校生への通学距離及び所要時間について
- ② 中学校の未来を考えるアンケートについて
- ③ 学校設置の取組事例について

(2) 意見交換（ワークショップ）【テーマ】～10年後の学校未来像～

○ 第3回 令和元年12月3日（火）

(1) 今年度のまとめについて

(2) 中学校の未来を考える会アンケート結果について

(3) 来年度以降の進め方について

3. 懇談会まとめ

庄内町立の中学校 2 校の生徒数は、令和元年度 5 月現在、余目中学校 425 名、立川中学校 94 名となっており、10 年後には、余目中学校が 347 名（現在比▲18.3%）、立川中学校が 70 名（現在比▲25.5%）と大きく減少することが見込まれている。また、クラス数については、余目中学校が現在 1 学年 4～5 クラス、10 年後は 2～3 クラスとはなるが複数学級は継続できる。反面、立川中学校は 1 学年 1 クラスが継続し、今後は単学級 20 人台の少人数学級となる。現在は、大規模校・小規模校のメリット・デメリットはありながらも、それぞれの良さを最大限に発揮しながら学校運営されていることが、保護者である委員の意見や生徒のアンケート結果から読み取ることができる。

しかし、小規模校であることで「部活動の選択肢が限定されること」や「クラス替えの機会がないこと」等の課題を抱えていることは事実であり、中学校に限らず、今後の小中学校のよりよい教育環境の創出に向けて、保護者の感心が高まってきているとの意見もあった。

今年度は、「中学校に特化」した、あるいは「中学校を先駆け」での懇談会としてスタートしたが、今後の学校のあり方について考えるとき、児童生徒数の減少とともに施設の老朽化についても大きな課題となっている。

特に余目第一、第二、第三小学校の 3 校は、昭和 39 年から 41 年に建設され平成 20 年前半に耐震工事は行っているものの、建設後 50 年以上経過し設備面を含めて老朽化が進んでいる。令和 2 年度まで計画策定が求められている「学校施設の長寿命化計画」を策定するにあたり、委員の方々の意見を参考とするため「10 年後の学校未来像」をテーマとしたワークショップを開催した。学校施設の状況や児童生徒数の推移などをまとめた基礎資料をもとに、活発な話し合いが行われ、中学校だけでなく小学校の将来について多くの建設的な意見が出された。

また、昨年度から学校施設の老朽度調査を行っているが、これは、文部科学省の評価基準をもとに、建設後 40 年から 50 年経過した建物を改修（長寿命化）することで、80 年程度使い続けることが可能であるかの調査であり、第一小学校及び第三小学校は、長寿命化には適さないとの調査結果がでていた。こうした施設の現状を踏まえても小学校を含めた検討が必要である。

本懇談会は、学校統合することを目的とするのではなく、児童生徒の教育環境をより良くすることを目的にスタートしたものである。今年度の検討結果から、来年度以降は庄内町の小中学校全体の枠組みの中で、学校施設の長寿命化計画を含め、庄内町の学校全体の適正規模・適正配置について検討していくことが望ましいとまとめたところである。